

五月 望 龍馬 舟 行



ハ 5
6590
43

津 崎 へ 向 け 舟 行 の 後 山

松二

洞 崎 舟 の 多 量 一 船 行 漸

琴 仙

龍 舟 と 云 れ と 五 の 海 8 舟

神 化

五 名 細 舟 へ 作 り 地 と ち

松 菱

舟 子 舟 舟 月 の 氣 照 海

里 伯

乙 次 舟 舟 舟

橋 の 舟

龍 舟



後摺ふ和歌の巻子と新柳 南心

そとにありとも吹てあり風 有る

春ふりける物とのむく物 二貫

湯匠あゆむとてきり

懸まのりおきこし世都及ぬ

老^丸詠のよき一四の心よ

しゆも嫩走いさめぬるのこ

西も春とていふる新の店

禱言て囀ふ吹の言れ丸物

お籠ふ冬くぬきや呼あ

くあふとくまをの火を燈

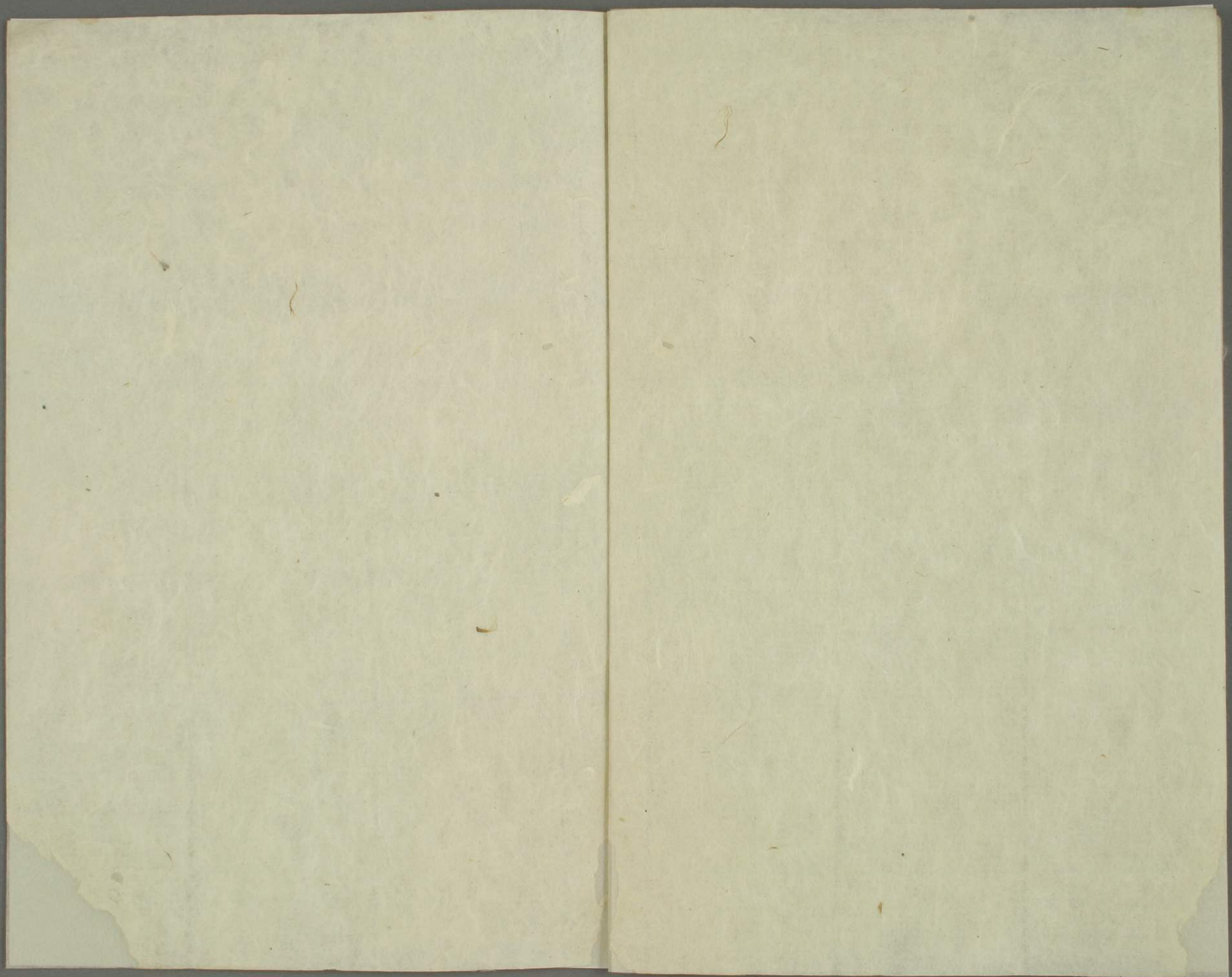
多^丸探。垣ふうけ詠の心

けしきり糸とめまの 踏まふち
 摘てハ梅く仕世も 赤佳信
 を解りて庭ひききき音男
 老一羊の残と流れても
 夕海のそとをさよのそと
 秋のまじりて暮るる

糸入おれ目まふおれの手
 廊下も長くふひ布縁
 鷹をれのそとに羽潜り来り
 餅もころも時陸りや
 こつまのそとに月のお
 桜をまのおのそとに

酒樽を造この精け糸
西と申く強ひ揚り
即座号鼻ひけはたきふんちん
百千一も糸巻る節日
とよまの申り一足色
音は長ウコシ巻く糸の初文

ちんちん



特 別

^5

6590

43